

SRID NEWS LETTER

No. 384 December 国際開発研究者協会 創設者 大来佐武郎

〒102 -0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

URL: <http://www.srid.jp>

「留学生の会」始まる
転勤のご挨拶

三上 良悌
欧州復興開発銀行ビシユケク事務所長 中沢賢治

お知らせ

1. 新年会

日時：1月17日（木） 午後6時から9時

場所：如水会館 東京都千代田区一ツ橋 2-1-1 03 (3261) 1101 (代)

ビンゴ大会 昨年に続き、SRID 新年会のビンゴ大会を今回も行います。

海外のお土産品(ない場合は別のものでも可) を一つ包装してご持参ください。

今回は先着ビンゴ5名の方に副賞も用意いたします。どうぞご期待ください。

会費 正会員 8,000 円 (ご同伴お一人まで無料)

学生会員 3,000 円

2. 休会復帰 大野 祐司さん

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

e-mail y.ono@jr-tt.go.jp

「留学生の会」始まる

三上 良悌

十数年続いた“時事問題研究会”は SRID メンバーに共同通信元社長や毎日新聞元主幹など新聞関係者の人も加えて、その時々話題を議論し、ある場合は各政党に提言することもありました。しかし、参加者の高齢化から今年春に停止しました。

それに代わるものとして“SRID 学生部と留学生との話しあいの場”が出来ないかと考え幹事会などで相談もして、拓殖大の甲斐さん、法政大学不破さんの協力を得て 10 月に第一回の会合を持ちました。

留学生は中国、韓国、ミャンマー、ネパールからの方が参加され、SRID 学生部からは中野さんを中心に参加されています。場所は小生（三上）宅で日曜日（月 1 回）午後 2 時から 4 時を原則として開催することにしています。小生の悪いくせで中身の検討も参加者の顔ぶれも漠然として発足しています。走り出して修正・改善していくつもりです。特に SRID 学生部の方にはご迷惑をおかけしますが付き合いってください。

3 回の会合の話題を提供します。

①10 月は顔合わせと今後の運営を打ち合わせましたが、話題として、小生が信用収縮の話テレビでの映像を使って話しました。テレビでは、「去年まで普通の奥さんが外貨取引をレバレッジを利用し、一躍億万長者になったが、中には今年になり全てを失った奥さんも出た話、サブプライムローンで危機に突入した時、半日で 5 億円を稼いだ日本の若者、より長期的に金鉱山開発にかかわっている日本人など」が紹介されていました。サブプライム問題は、その後も世界的に傷を広げ、各種の対策が打たれていますが「一見落着」にはならない状況です。今後も実体経済への影響、不況とインフレの恐怖が語られ、投資に関係ない人々の生活まで被害をうけつつあります。この背景にはファンド資本主義、金融資本主義などといわれ、資金が信用というベースの上でコンピューター上で猛烈に、国境なしに実物とかけ離れて膨大に増殖したことによるのではと考えます。国債を含む債券も信用ですし、日銀券はじめ各国通貨もニクソンショック以来兌換性はなく信用でなりたっています。信用収縮がどこまで進むか国債、更にはドルなど通貨に波及するのか（その場合は激しいインフレになる恐れがある）、金融資本主義の終焉がありうるのか？資金運用しか将来設計がないような風潮はどうなるのか？資産運用など考えていない人も、第三者として傍観してよいのか？などが問題です。

② 11 月はミャンマーの留学生から“ミャンマーの民主化運動の話”をうかがう予定でしたが、ご本人が入院されることになったために、甲斐さんに“タイの民主化”の話をさせていただきました。非常にわかり易い話でした。さすがと思いました。タイのクデーターなどで

大きな役割を果たしてこられた国王も 80 歳になり不安との話(小生 82 歳には耳の痛い話)。甲斐さんのお話のあと、タイの民主化の話が普遍化して一般論として民主主義とは何か、米国、日本、中国、ロシアなどの民主主義の課題の話に発展しました。甲斐さんは民主主義といわず民主制度を言うべきではとの指摘をされました。それも一理あると思いますが、今日の新聞も民主主義の言葉が踊っています。いずれ日を改めて議論したいものです。

③ 12 月は中国の留学生から CSR の話がありました。説明資料が、CSR にも色々の形があることの説明を中心に、その背景として日本の明治時代の会社経営者の経営思想の紹介など豊富な説明がなされました。特に中国の CSR の現状を外部要因と内部要因にわけて説明されました。CSR が企業自ら行う行動であるにしても、その基準の様なものが国際的に形成されつつあり、一方で多くの企業が外部からの評価を一般から公募している。(テレビで公募の方法として<http://www.dff.jp/>を紹介します。メールアドレスを入れれば各会社の CSR が送られてきて、それへの評価ができます。)多くは、自分の企業が省エネ・環境配慮をしていること、社会貢献として寄付を含めた活動をしていることなどが述べられています。これらは CSR の概念から外れた企業の PR 活動と見られないこともありません。企業の行動についてはその外に、株主からの要求、オンブズマンの監視、特に多国籍企業の国際的活動への監視など企業と社会の関係についての議論がありました。日本の企業集団である経団連は、環境税導入反対、法人税引き下げなどを主張し、政党への寄付も再開しています。これらは、国際競争力維持のために必要だとの理由からですが、欧州では環境税を導入している国はいくつかありますし、法人税引き上げを主張する企業も現れています。企業が社会に受け入れられるためには、これらの問題にも取り組むべきではないでしょうか。(洞爺湖サミットで提案し、各国に呼びかけるなど)

来年の 1 月の話題は 12 月に COP13 が終了し、来年 7 月に洞爺湖サミットが開催予定なので、環境問題を取り上げることにしています。小生が「やぶにらみ環境論」を披露するつもりですが、参加される方からも発表されることを期待しています。

その外に、学生諸君がいかに IT を利用して情報を収集し、翻訳を含めて整理し、自らのものとして論文を仕上げ、いかに効果的に発表するのかを SRID 学生部の会員に聞きたいと思っています。情報問題では留学生諸君から日本でのニュース以外の情報源や日本で放送が少ないアルジャジーラなど外部情報源の話、また外部への発信問題などについても意見を聞きたいと思っています。

転勤のご挨拶

欧州復興開発銀行ビシュケク事務所長 中沢賢治

さてこのたび3年間のバルカン半島の国々マケドニア・コソボの勤務を離れ、中央アジアはキルギスタンの首都ビシュケクに転勤となりました。暮らしやすかったスコピエの任期をまだ一年ほど残して、なぜ天山山脈の麓、山と湖の国のポジションに応募したかについて妻から厳しく問い詰められました。 「ロシア語をもう一度勉強し直したいから」、 「アジアが好きだから」等々あまり説得力がありませんでした。11月中旬に赴任して2週間ほど経ち、事務所スタッフ、政府関係、取引先の皆さんから予想以上の歓迎を受けてみて、このように自分のEBRDにおける仕事が強く期待されるという感激に飢えていたことが本当の理由だと感じました。これはバルカンのように、ある程度発達を遂げてEU加盟候補となっている国々では想像し得ないものでした。今週、キルギズ共和国のパキエフ大統領に赴任のご挨拶に伺ったところ、地元のマスコミはニュースとして暖かく取り上げてくれました。ご参考までに添付しました。ご笑覧ください。

キルギスタンの最大の魅力は天山山脈の麓に広がるイシク・クル湖です。この湖は三蔵法師大唐西域記にも大熱池、大清池などとして出てきます。作家の井上靖先生が中央アジアを旅した頃はまだソ連の軍事拠点であり、訪問が許されず残念だと紀行文に書いている湖です。小生にとっても96年2月に送電線プロジェクトの出張で訪れて以来、心に残る風景となっており、タシケント勤務時代には夏の湖への旅行を計画していたところ、出発の2日前にさそりに足の小指を噛まれて諦めてしまったままの因縁の深いところです。

日本には少し近くなりましたので、シルクロードの歴史に興味のある方は、出張の途中にでもお寄りください。

中澤さんよりご紹介のありました、新聞のPDFファイルをごらんになりたい方は、sridjimu@par.odn.ne.jp にご連絡ください。 別途送信いたします。